

駅周辺もみんなできれいに



好きな 野球ができる 感謝の気持ち

グローブとバットをごみ袋とはさみに持ち替えて、まちを歩くユニフォーム姿の球児たち。豊島高校(北緑丘)と桜塚高校(中桜塚)の野球部の生徒たちが地域の清掃活動に取り組んでいます。

豊島高校野球部が学校周辺の清掃活動をはじめたのは、もう6年以上も前。多くの人に支えられ、思う存分野球ができることへの感謝の気持ちを行動で示そうと、部員たちが話し合っははじめました。回を重ねるうち、ごみが多く捨てられている場所をすぐに発見できたり、バットと同じようにはさみを上手に操り、小さなごみまで拾い上げたりできる“強者”も出現。今では豊中市のアダプト活動に登録し、市から用具を借りて、本格的に取り組んでいます。「徹底と継続。どんなことでも一生懸命に頑張る過程が大切。みんなに必要とされる人間になってもらいたい」と、この取り組みに期待する犬山博監督も一緒に参加しています。

「ありがとう」は
やっぱり
うれしい☆

すき間にたまったごみも
一つひとつ拾います



桜塚高校野球部の生徒たちは、授業前の早朝練習の合間に、グループに分かれてごみ拾いをしています。学校周辺からスタートし、今では商店街や岡町駅周辺までも。3年生の花本健さんは、「朝早くからの打撃音やボールが場外に飛び出ても、温かく見守ってくださる地域の方に少しでも恩返しをしたいと思います。注目されなくても、自分たちのできることを確実に実践することで、チームとしても人としても成長できるように感じます」と、思いを語ります。でも、通りがかりの人から「いつも、ありがとう」と声をかけられると、やっぱり一番うれしいとのこと。清掃活動は、部員同士のコミュニケーションの機会にもなっているそうです。

両チームの目標は甲子園。高い壁だと知りつつも、その瞬間を夢見て、毎日厳しい練習に励みます。その合間をぬって、地域の一人としての役割を果たそうとする部員の皆さんの頑張りに、心からエールを送ります。

豊島高校野球部の皆さん



桜塚高校野球部の皆さん



学校周辺を丹念にごみ拾い